

【議事要旨】第3回 AI ロボティクスに関する関係府省連絡会議幹事会

1 日時

令和8年3月17日（火）11:00～12:00

2 場所

内閣府合同庁舎8号館5階共用A会議室

3 出席者

<議長>

西山 英将 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）

<副議長>

石曾根 智昭 経済産業省製造産業局産業機械課ロボット政策室長

<主査>

岡部 涉 内閣官房日本成長戦略本部事務局参事官

菅田 洋一 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局AI政策推進室総括参事官

<構成員>

神崎 忠彦 内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）

立石 里生太 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（政策調整担当）

桐部 仁志 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（防災デジタル・物資支援担当）

阿波 拓洋 警察庁生活安全局生活安全企画課長

尾崎 守正 こども家庭庁長官官房総務課長

千葉 周平 消防庁総務課技術戦略室長

中澤 恵太 文部科学省研究振興局基礎・基盤研究課長

和泉 誠人 厚生労働省医政局医事課

医師等医療従事者働き方改革推進室長

磯谷 桂太郎 （代理）社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課課長補佐

村中 秀行 厚生労働省老健局高齢者支援課

介護業務効率化・生産性向上推進室長

阿部 尚人 農林水産省大臣官房政策課技術政策室長

田岡 卓晃 経済産業省大臣官房産業保安・安全G保安政策課長

荒川 洋 経済産業省製造産業局製造産業戦略企画室長

宮本 香織 （代理）経済産業省商務・サービスG流通政策課課長補佐

工藤 さやか （代理）経済産業省商務・サービスG流通政策課

物流企画室室長補佐

大石 知広 経済産業省商務・サービスG医療・福祉機器産業室長

菊田 一行 （代理）国土交通省大臣官房参事官（イノベーション）G

施工自動化企画官

阿部 真嗣 国土交通省総合政策局技術政策課技術開発推進室長

杉本 留三 環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課長

濱野 健二 （代理）防衛装備庁技術戦略部技術戦略課技術情報室長

<オブザーバー>

大野 誠司 総務省国際戦略局技術政策課研究推進室長

<事務局>

奥家 敏和 経済産業省大臣官房審議官（商務情報政策局担当）
渡辺 琢也 経済産業省商務情報政策局情報産業課 AI 産業戦略室長

<関係者>

森田 正敏 警察庁長官官房技術企画課長
前田 亮 国土交通省住宅局住宅生産課長
氏原 拓 復興庁福島国際研究教育機構室参事官

4 議事要旨

○開会

○議事

・ AI ロボティクス戦略について

出席者から、AI ロボティクス戦略の素案について発言がなされた。主な発言は以下の通り。

- ・ 多くの分野で人手不足が深刻化しており、AI ロボティクスは、まずは、負担軽減や安全確保を目的として補完的に活用すべき。一方、現場ごとの個別対応やティーチング負担により導入コストが高く、中小事業者を中心に費用対効果が見えにくい点が共通の課題となっている。
- ・ 技術面では、成熟した工程は短期的な導入加速を図りつつ、不定形物対応や自律化などは中長期課題としてAIの活用が必要とされた。現場データは競争力の源泉である一方、ドメイン単位での標準化・共同活用が重要。
- ・ また、安全基準や制度整備が技術進展に追いついておらず、実証を踏まえた見直しを省庁連携で進める必要がある。
- ・ さらに、各分野での横断的技術活用やテストフィールド整備や通信・データ基盤を含む共通基盤整備の重要性が示された。

また、西山内閣官房内閣審議官（議長）から以下の発言があった。

- ・ 短時間の中で、戦略およびロードマップを取りまとめていただいたことについて、感謝申し上げる。今回、対象とする領域や課題を整理し、短期・中長期の視点、市場、技術、制度といった切り口で、マトリクス的に整理していただいた。現時点では、まず課題の可視化を行った段階であり、「具体的にどのように対応するのか」という点については、今後、対応策を検討していくという段取りになると理解している。
- ・ 今回の戦略における大きなポイントは、需要サイドと供給サイドの取組を一体的に設計している点にある。特に、汎用モデルや共通モデルの整備・高度化に当たっては、各社や各ドメインが個別に対応するのではなく、需要サイドと供給サイドを一体として捉え、モデルを共通化・高度化していくという考え方が重要である。

- ・ また、フィジカル領域についても、共通性の高い部分については、特定のニッチな分野ごとに各社が個別に取り組むのではなく、業界全体として協力して進めていく必要があると考えている。AI・フィジカル分野における競争は、米国や中国を含め、世界的に不可避な状況となっている中で、個々の分野で単独で勝てる領域がある一方、業界内で協調すべき領域も必ず存在すると認識している。
- ・ その意味で、本戦略は実装を見据え、需要サイドと供給サイドを一体で設計していく点が肝であると考えている。各省庁がそれぞれの役割を果たしていくことは重要であるが、連携可能な部分については連携して進めていくという目的の下、このような会議体を継続的に運用していくことが重要である。

○閉会